今樣揃

二編

下

陸

14
3157
43(1)

14
3157
43
(1)

仇競今様柳後編下巻

江戸　十返舎一九著

第十二回　尾上の花

美人駆る川岸の里に数多の傾城や歌妓もとりわけゆたりひの容貌とぶるその中に近頃の川べり高名なる。流行の芸者糸吉を宮姿八糸換の芸のけりひ美しく変りまくらふ流行るこの川岸音頭とりつかの紙。こびる作り出せばこそ世ふ廣く

ゑろまりく。都も影も唄ふ伊どふ。こを戒伝へ聞く
人くそ見ね恋ふあくがまてく。幕ふものまくかゆゝず。
さまこばきのふよ今日と塔ふく。宮の絵図ハ形ふもける。
くふハ浮雲寺とふ梵刹の観世音の開帳ありと
く。参詣あぎろふ折うふ。糸吉ハ上方の商人桜津
国屋嘉千兵衛とふ人ふ。このごろ揚屋めのやふきれ。
座敷ひろぎ法とあゝぐろふハ開帳のやざりめや。
芸者ばかりどく連らまてく。とりふ彼処へ出るふ。まハ評判の

歌妓ありとそ。縄手さくろハ拝まゝしく。こを紀糸吉
とのこをくりる。かゝる婬婦女の色我引てハ我とそ
京都の大金持と。自慢の身ありまで。ある酒楼
の奥座敷まく。養酒の大うふ。嘉千兵衛ハ糸
吉ゞ従まりまく。静。戯絮ゞ号と
法ゝゝゝゝゝゝくくく

笑ハいやごやとうてく。酒とものんでハ暮るとおそいうも
ぐらく
獨楽ひとり楽ごや。せくそまとうハ何ゆあぞそのご
にゑおりそ海濱のまさごとけ門かるく。いろふるめ
どうだやとうふても男のきくひおやといのがひろい世
間ハあるものぐ。ハテ詮ーの本行のゑじゃあるまいー。
ゐまてふ無理もあるまいがサ無理ゑーいやといまく足
やんせ　一ヲヤあんぞといふとそのるゆだろうぞ是
だりハお稽ぐひぐごぐいまいろく。堪忍ーくごさい
ゆり。数多ーねつうとこそ。そのあうまつーしかく
ごさるハ。嘘ハもありがごふぞんじ　ゆきぞ是ある
ちゆと　ちゆとハまくある。男のあるるハ。
まいぐも初まてこそ。そのいかて成得さそうね。この
和千吉様さんごやるいハ。ハトさ面ーぐまくどか
るく身のはくさ。糸ハ古ハさでみくあき。この世のうに
身とゆりハ。ハ。死ハ古ハ。仙毋の為ハ
貴まてる。身代ハ使ゑ代ハ。その年の頃ね間ま。

命もてご身の仕合せず。親母の命の親方よ。愚成
仇なる仕うえ天せ。と。生の実とのこと。ところの
うちぜこのりき。加千金清八左ふ右ふ。そ主と知
れバいつかもしく。糸吉成自に入きんと。さ名ぐ
ものと思ふく。金の山成ぢき。そこ。物拾新成鼻ふ
ヤ。エヤ糸さん言ぐかうぢや。ハ男ぢやの情夫ぢや
いつても。お金ふりのが多けりや。ほしい仕ふ多ふ
ふ。己が身の濡ひやどふ。思ひ川ふ女子とおとよ。

人とぐ多さ〜〜金とふう。いや〜〜い根情ぐある
ふ。命もぐくれ〜〜う多のやうふ。ひまてこの貢丈ぢやのと
いつふも。こんれこぐ身の田へひ〜〜ふ。ふ。そ主成
よの事に地りふく。糸の芸者〜〜ぢ
ふ。ふ。ふ。

こゝもとてと申し申さう和。そもそもでハお金の出威光が
ヨヤホ〳〵。こゝまハ拙それ〳〵「ありやう〳〵」「あふねう〳〵」
のぢや。とゞ身の申うか野暮人。岩根の関みぐ留
らる〳〵若ぢやホコレ山方とゐんとゐんとおつふてぢや。翁ハ
鶯〳〵や金ぼく〳〵。歌妓が自由よるものと。おのつく
白ゐんを番ぢさんぢやゐるゐく「ヨヽ大和屋さあり」
「ヨ〳〵エアノ声音をひとつ聞おせるさいやう〳〵か」「色
色〳〵ゐんさ〳〵いゐる紙。お江戸ゐハ流行けまど。

嵐吉や貝徳。三郎ゐんどの吉似ハ知〳〵ん〳〵か。エヤ
そもハどう〳〵でゐるゐく〳〵。コレ糸吉さんむどいぞく〳〵
ヤア物の石理紙拙ものりんせ「アイ物の石理ハ女郎
ゐれと。拵〳〵ゐ縛るぶゐう〳〵ます。藝者ハお座〳〵紀紙ゐ
持ゐでのるぐぐざります「ゐんのそもいつく〳〵も
むう〳〵の事ぢや。今ハ甚紙か雅墨でゐんハゐるぐぐソレ
縫ゐ〳〵の粗歌よ。こゐぐぐぜく〳〵ゐんと歌石遠りゐり。
女歌妓の母の猿。よく続ごものぢやさいコイ「マア

おひとりめ〳〵わがりやうれ。ヲヤ是ハひんをもつて。お燗
をちよろと申〳〵まをそう　男「イヤ〳〵事のころらん
うちハ酒ものうん〳〵　女「ヲヤどういつて〳〵まをうれ。
やうハあつて〳〵きいものごよ　男「るんぢやせ門ふところく
あつて〳〵きいぢやの。もう〳〵糸吉さんがうめまぬさろい
酒もいやじや〳〵　糸「ヲホ〳〵きろのるてわりまをよ。ヲヤこ
〳〵ハうう是きろく居りまをろふ。あんまりうめまをく事
のぢやせがいつて〳〵。うんぢろもう辞退〳〵いやうで　女「わんま

このまぶ〳〵ぢ成巻やまをそう　糸「ト申ぶ是成ぢまけハ糸吉ハ
の雪でハ申〳〵。花のさろうぶひとりれでありまをよ　男「イヤ
エラう降〳〵ろう。ヤモ申ま降花ようこの又生こと花めが。
どうもこまん〳〵。一枝折〳〵やころぶとんと居
降ねぢや。コレつまるい美情の君。こちゆく風やまをびん
せ。アノこの男子教〳〵わゞトまぶれ　糸「アレサやめぢけまを
いやぢが。ヲヤ〳〵やアノ〳〵いろをハ。きろいきゝぢぢら
まをゝ〳〵　女「り〳〵糸吉さん。ちろりと向ぢらうぢ也。

そもそも園の生成。あまつくにやまとのくにいざなぎ
ぜざりゃせんか。「りんよりも。あまつ八幡宮の花見ざよ
アレあのうつくしい女郎をとりん先のが桜の枝さんそのの
次ぎ次ぎ季まつ花さんざよ。「りんよりも八幡宮の花見でざ
ぎいまるる。「四海楼ハぎらぶん昇屋だや。こりゃなぜだや
ぐれ。「りんあの逢瀬さんハ昇くしうございまるる
「エあのお方ハうつくしうても情がまるるく。「ヨヤく
あのくぬ情のわる者面白いあるらんハぎざいまるんと

「ぼっこ。「上がるこのあるとまるば。
「糸さん菅浦さんがいるのとも
情がありゃまるとさ。「糸さんと菅浦さんがいるのとも
まるるるる。お次まるるる。「いエりんと。「アノ男
ちゃアお客のハ好ざまるぐ。人形の衣服ハお客者ら
くハいるしいせんと。「あるぬ。ぐぐざいまるるとヤ
るるば。桐さるくまるるぎらうと抑のみと情うざ
とさ。「りんのるるぐ。それよりも松坂結の伊勢ドでも。不
意気よ強く仕立て。菅浦よハ柏りんどぐ。「ヨヤ伊勢

よる
絡さ笑縫ふく　「こりやあやまつた。りんさ座のとかけて
借さ貸程ぢや。そのこころは。ふ。ぶるぶるぶるぶるぶるんぶるぶる
糸「ちやうとしてもおいがコロるいよ　「まつこあやまつた　女糸
吉さん。今見ハ赤ふけ花見の見物がこそうで丑だ中分
ことろぢやアございませんか　糸「そうさ拾へ。り一（笑ふ斗り
初ふ〜山田我わづく〜つしやいませぶ。ちりと蓮香山へ
でもおいでうけるさいとせんか　「おやこのお家のむくやう
かごこへ行うこころか　女「りんさをまつよろしうお

ざりやせう。笑刻ふ〜徳平がわちふの座しきぐ。お
声を出ふく花見のお借と。新ぐひしひとやまーさ「
ふんお連ふく来さんせ〜〜ト男げしやおこと云どうちくとうち
はまふく花見ふ出でうける。新内のこころへ。やこと向やま一番見
ゆるの糸　「アレ〜花園さんの新造衣がわるい浅ぼん
でどりやせうよ　「エてわりや　堂唱くこうれ
と物絃　作者曰　こぐく見本の名人むうしりさ見ものこりやし
糸「わんやりそうでるございやまい　男「糸さんの

丹こそするそく「おやそんの。ヨヤ。何ところまこそうまを
殺へ「エモシ旦那へ。この藝者いどりめる丹ハ。まをわの馬ぐ
妙ぐこぜへ「ホガ妙ぐ。だをこぞの口脇のかるる木
妙ろ「イエサ山梅の本を見ると。鬼瓶とーくこそだきた
うう。いどりめるこハ家上さーいかめこそ系素梅を見のるまわのれ
ホ。花こそひょうの素ものうう。梅を見るもはりひのこそと。
梅の花ハ絵ぐきーさ。てまをとるるのうりーぐ人ハ
うるき記ともーぐ。梅を見をぐゆ。こそ見を

初りくとりくーハ。はりーろーとくー新りるこ通「モシ
梅ぐきーくーハ。おつふ初りうこ高きぐ人ぐまんう。
いづまきしお者とバいやぐるうまぐ「この涙入を湯を
きらくのっッ「いやァ役戸役者の声多きいるりーく
「湯又ハちぐーであらうが「ちるくーるぐハ梅ぐ好ぐ
て丑沙忘蓋ぐこのやうまはけやーこ「いづまを名書の
筋ぐう。天神さる見殺るけう。梅を一生ろるぐう「そん
かるりより。松ぼくーでもおるひまこいー「松ハ

おきてひでんのいろは　紙「松のかげにてけとりの宮がわまで。
白浪姫物でございまして。アイタヽ。ぶてば白浪いて〳〵
糸「そまと又梅がある。こまこさこと紙とひろぞこ。こちら紙おんイ
ヤア高姫〳〵　糸「半通さんもう移へよりく。おこまと生れ
ついてきてひどさの紙あるそんぐこもきてひか物もあらう
どやアありやせんえ。ちんぐこらうね〳〵筆隆アか　紙「地こる
屋〳〵〳〵。ひ屋者ちんハ梅紙アんとおこるとあるへだ
高「ちて〳〵こうく馬りく。浦里さん〳〵　糸「大きこの画

どのうつ。そまとそうとの四をのるの向嶋とてく梅屋
〳〵きろ梅若ちどハどうどやあらう又どこの天作
さうあら　紙「ちんの夫よりアしあの紙左りん細い屋義登
ると梅ぢりあるくく桜ハとんと出ちうございまする
糸「そりや松り〳〵ろい。今ハ最ハ最ちまちさぐ梅の美ちと
ヌるもよりうう　糸「こまとハおこ物姫子。糸吉さんハ
ちこ〳〵四〳〵〳〵こどさいやと。ハ〳〵　糸「こぜまこそんか
ちあまりのどや〳〵紙　糸「ちんでもきてひかものでを賣るど

一のゑ。さゝ〳〵くとも左りの山うゝ。どこまでも梅人ゞ
ようちうト つやゞる永吉 をりやりよ おりの 高雅紙のうくん。せゝる
ゆ如〳〵ところち連く。人くも通ふね山屋の。想夫のゆ〳〵紙
舞ゆつ。紛ばゆ〳〵ゝど屋の左右ま梅の百樣越紙ゆ〳〵。
宝蔵りゝる梅宝山 高ゞ 高ゞ 梅ゞ 谷山 海〳〵〳〵
く人 血ゆ多ゞ 行ゝゝ 〳〵く 俺〳〵 ゆ。 来里ゆ 和雪の
春紛り 紛ゆ 声ゝゝく。人 来ゝ 若ゝも ちゝ〳〵〳〵く 糸
吉ゞゝゝゝと ちゝ〳〵ねゞ 巳巳 統 梅〳〵 きんゆ。きゝゝゆゝと ゆゝひ

梅 責ゆゝ。ちゝりゝ 海〳〵 分 入りね

第十三回　散残花

和風細柳 紙舞〳〵。 澹月梅花ゆ隠るゝゝ。山谷東坡
と離ぜ〳〵 持 酒肴ゆ美人と眠ると見〳〵ゝ羅浮ゞ
夢ゝく 梅樹の精ゆり。梅ゞ 高紙 山ゆゝゝゝゆ 吹ゝゝて。
入ゝゝ人ゝ ちゝよ 春風と。西行法師の歌のごく。屋の
ゆ〳〵ゝゝゆゝゝ。ゝの 兄ゝる 山ゝゝ。今ぞ 春ゝく 夢
の宿ゝ〳〵 宝ゞ 来ゝる。山中 蟹日ゝけ 丑ども 巳紙

又々く時と知る。実ふ愛ごき義とう。「うんと
又々の方抱でふござりまやねう。糸吉うんの御様よ。
この梅が咲くとうゝぶ。どんうふ愛くゝうござりま
せう　独「梅とのゝかひるふ丹くゝ生成。線をそう
「やまま柳の糸。とつの粗肴ざあり年ゝ感慨ござ
「あとまま柳の糸吉。ドあ解りゆゝくおくぶよろう
「すぐちん鶯万の糸吉ぐもとろう「きりゝゝく　独「うん
ふそるぐ抱りひ出ゝさ。別る提重のござひどうゝさ

「ヲットこうのうでのゝうふ屋ゝゝ。山方も大きう優ざ
きゝりゝこのぐ。さうゝゝ華下に見もうるきゝ。ゝく居る
うちふあき〳〵箱持の八六いと坊主抱でふあるめく人抱
でも絞。うんざう岩抱う何うゝくうん〳〵とうう
抱ぐゝ来ふ。吉姫〳〵。うんと寄ぐ飲むとふ一奥ご
の人「独十二二奥うこ奥ごゝるぐうトゝ「
サアゝ泥ごゝ。うんとゝ糸吉。其抱ふ主照君ご胡地
ふ姫ゝこうう多抱つたとちりとうふさんせ。ゝこう多ゝく。

サア〳〵さてさて〳〵。「桜のぢゐんが世界様ゆく。物見と云、稚代〳〵。去年の枝折の戸ゆく。まだ見ぬ梅と云、あり〳〵ぶり。「梅花貌紙茅く和尚が頭上が飛ぶ。おり〳〵ろい〳〵。サアのこの人〳〵ト言うまもなくのまるやどが出ろう。

世界の拍子〳〵ろく。こりゃ〳〵。

唄。山川蒸山川たつさとぶも。えるうが人面紙隠ちこまで。

見る人きく人わくぐるもまこと一寸の奥ありと。ろくが

ふさぐ糸吉が。夢理ゆくらる源紙渥く「サア〳〵おい

さて〳〵。うんのいやがある物。よ〳〵このでもゆかそう。

どゑ〳〵その三絃紙こちく「絶の波ちくひ〳〵まが

ある。「めちろん。ちこと。アヤまゐんッ「糸吉サア

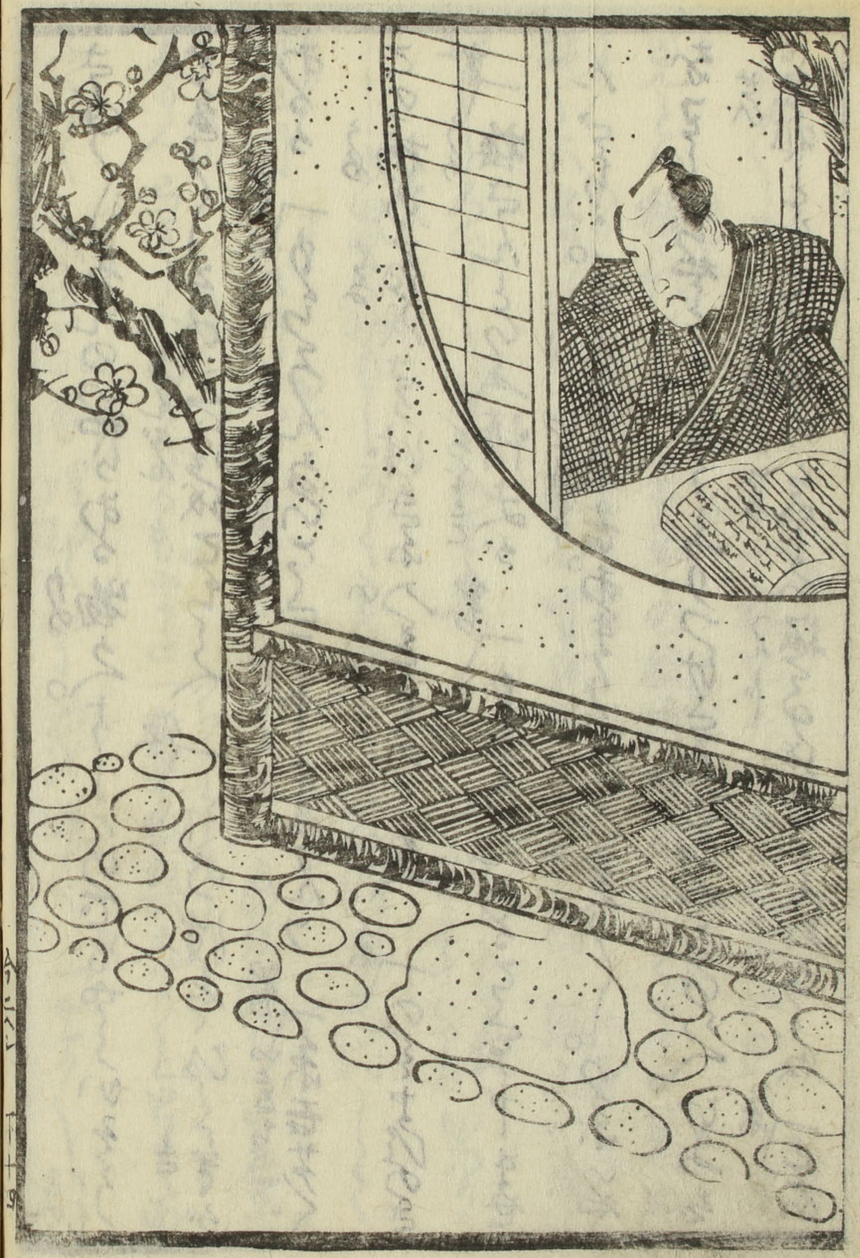
この梅の花紙さう渡きが。「のこやのき

「梅さんとこの情夫が「めちろんあるこアヤまゐ

んどこちう。うんと糸吉。あまりむどゐぞ〳〵。いふいゑ

かゆこ〳〵ぢやとく。さう〳〵ありつけこのぢやるろく。けつを

異飛ともこの梅の。ろう返る紙きこのばまゐね「ぢゐ



紀山人
貞婦
情人

ぶんをんとうお返しの紙「ちゑさま〜義いさげど
さやく〜うんと今〜義ぐ」「エそれんぢやせう〜ゐそう
きゝ義ふお返事ぐできるものろ。どうもまたこーやさ門を
う〜。癌が出こうく〜ゐいう〜。ぐんぐんぐ堪忍して。物成
門〜ゆ〜んぐ〜ぐでいち〜「いやもうゆめく〜うち
いろせく出きや。ぐぐ作ゐ廉人めぢやゐ。どうしてこゐふ。
ゐ〜ひどいめふあ〜しく〜ぐぐうろ「とてもよいお返ぐふ
でぐるい作ぐあり出ぐ〜。いろそのるゆひとゆりひふ報して

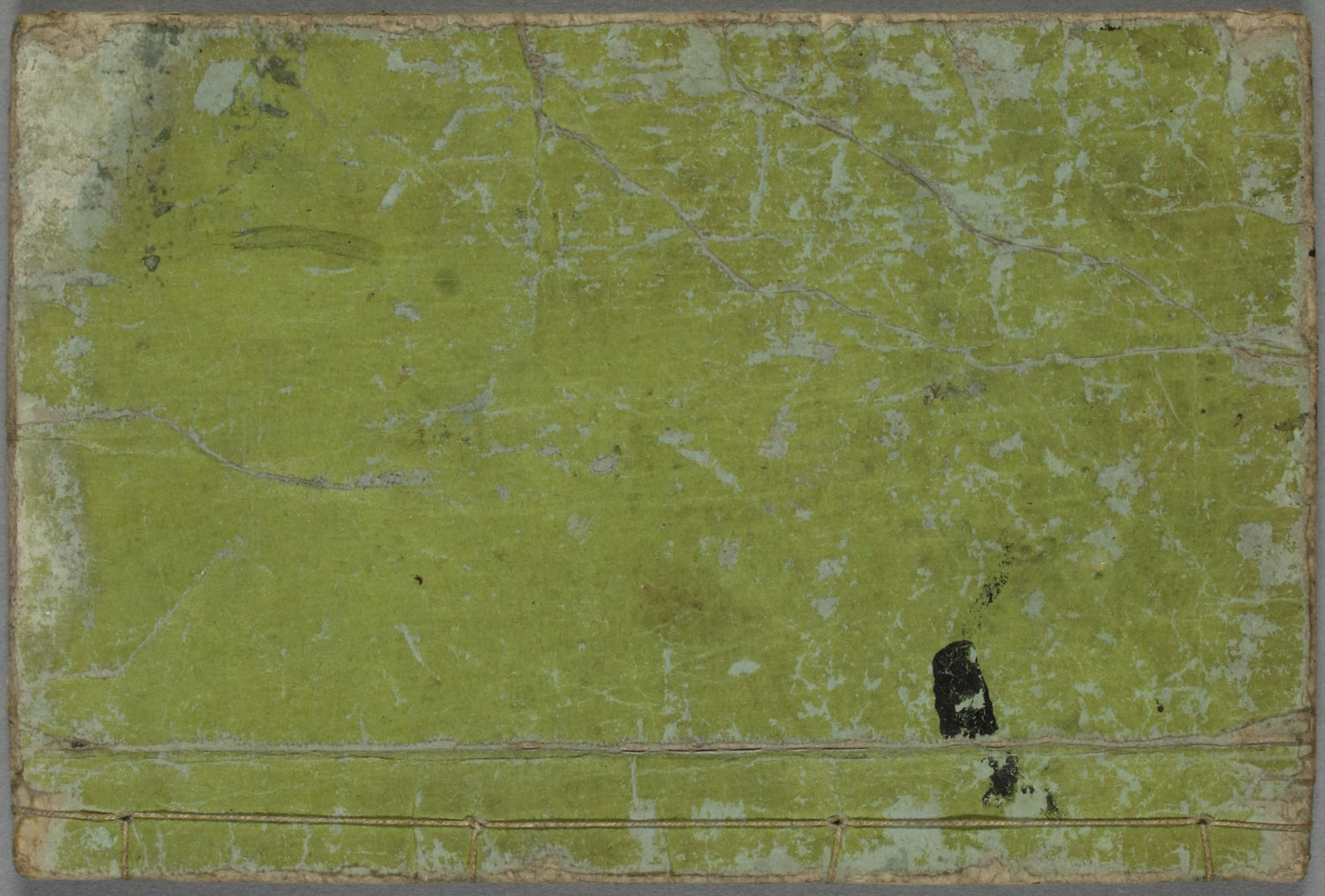
うりとしてぐでいい「ヤこの門ぐ〜いけまぶとそんふ
ら郎〜く〜ぐぐ〜ぐぐ〜ぐぐ出ぐ〜ぐ〜ゐぐ
さめく〜。おくぐ蓋紙ゐ〜ぐぐ。この頃の欲づぐゆ。芳れ
く酔ひのいやゆを嘉千義。いと長閑ゐる四方の景色。
春風のまふ吹まぐ。ゐ〜ぐぐう〜眠るぐふ。
ぐ〜ぐの〜ちふぐ才過去のわ〜く〜ぐぐ時れ
生ゐぐ〜。ぐ〜ぐ仙毋ゆ違〜ぐう。ゐ〜ぐゐふまね
義理とあり。いろ〜んいや〜いろの就めぐぐ〜ゆ

しぎ
頃宜由なく泛くも見くねはの〜さ義。笑ふくらん賀
のせつれさこときもこの世よ在くなき。コぶ身のよのるり
うまバ公コハ墨漆の衣着く冥途とやゝんホ居る者
形れど。さそぐホ陽界のかすの〜さ八西上人の弄のごく。世
と捨く家八家のものとおくども。雪のふる貝宮くさそ
ひまこ。ふるものしゝ〜コぶ身やまさ頻徑八身にそひて。
ひまれうめる梅さ形さぬ山田の價和よわゝやく。あれ
果〜ま〜山寺ちぐ〜。おりべさそ今ごろハ杉さぬし

りろとふ。中よくゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜この頃のよく天気ホ
ハ晴ふんご。さぐるく秋のり〜ろいこの〜ゝ義。去て居
ふるんうらあ〜やまさ柳ス助ハ生の娘のこのコ〜ホ
すて捨〜ま〜く。さそ帰んでわるるんと。ゐこ〜ゝうの意
〜さこ。かま〜さホいぐ。ゐ。徇ふ〜〜く打病の癖
のさ〜こむとバまゝ〜。そ門ときぐして答のかのゝ人
酔とさ思ハ静ホりてる〜。人の足ゐ山ゐげて茶
ぐ。ふ先〜。不図去彩の山古図紙足ゐ一宇の茅屋

ありく。ちひさき紫の折戸ばかり。門に大梅の木あり。
植ゑ。さまざまに高麗の住居のさま額に百梅亭の三
字を書り。糸吉こゝに紙に人々。何人やらんこの山奥に
人の家のあるべきもいぶかしと。ひる風流の住居とは
いと奥ゆかしと見る時九窓の障子をひらきて。
石の手水筒に入て挿ハ志きしの花ゆゑ机の上に
香ゆゑ。手向る榊とよく見れば。豈さらんやの
人ハ月ごろ日ごろ手ずから梅を郎ゑてひりけるを

こゝにつゐふとぞりふ。あきらかにたゞり物いひぞ。彼方も人の
けひして。来る紙淫やと。メゞもの。外面に立しハ別
人なりけ。妻のお春てありけるバ。こハ思ひもよらぬ先
つ須磨川へ入れ〳〵れバ。今もふある屋敷ゆゑと
たゞして遊灵の草ひ来く。我ふらん紙いろんとも
。頓證菩提と仏縁ある孫教ハ。山方も不審晴やゝず
のゝハ日ごろ恋ゝ。紙程ゆんこの。ゝゝさと
あくこゝでるさんと。ゆるさるハ人をもふりやう〳〵妖怪

再もせよとこぶ手の。凹凸こそ門ぐるれ
うまづ〳〵さふ。業問もせど扉戸は。明つ閉へ。
○此のちつくる物語り再いてる。第三編の段
市成待く。首尾全き成り行べし

仇競今様櫛 後編下の巻 終